

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1992年度



1993年3月

富山県小杉町教育委員会

例 言

1. 本書は平成4年に小杉町教育委員会が実施した、埋蔵文化財発掘調査及び分布調査の概要をまとめたものである。
2. 本書に収録の発掘・分布調査は、平成4年2月から平成5年2月末までとした。
3. 小杉町土地開発公社の工業用地造成工事に伴う天池C遺跡の発掘調査は、小杉町教育委員会が調査主体となり、山武考古学研究所（所長 平岡和夫）調査員の協力を得て実施した。
調査の担当は、小杉町教育委員会が原田義範・稻垣尚美が行い、山武考古学研究所が肥田順一・小村正之・丸山雅美が行なった。また、白石遺跡は、小村正之・丸山雅美の調査協力を得伊勢領遺跡は、肥田順一の調査協力をそれぞれいただいた。
高岡土木工事事務所の主要地方道富山・戸出・小矢部線改良事業に伴う塚越B遺跡の発掘調査は、小杉町教育委員会が調査主体となり、富山県埋蔵文化財センターから文化財保護主事高梨清志の派遣の協力を得て実施した。
4. これらの埋蔵文化財調査に係る事務局は、小杉町教育委員会におき、調査事務を主任金山秀彰が担当し、生涯学習課課長盛田寿子、文化財保護係長堀川辰幸が総括した。
5. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、次の諸機関からも協力をいただいた。記して謝意を表したい。開成測量株式会社・サコウ建設株式会社・富山県高岡土木工事事務所・山徳不動産開発株式会社・有限会社河上金物店
6. 小杉町教育委員会が調査担当した遺跡の出土遺物は、天池C遺跡の調査事務所及び小杉町立太閤山小学校の教室を借用して整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。山武考古学研究所の調査協力に係る3箇所の調査遺跡分は、報告書の作成終了時まで山武考古学研究所が仮保管している。
7. 本書の編集・執筆は、原田・稻垣が行なった。

目 次

1. 平成4年度の概要.....	1	4. 本調査.....	6
2. 分布調査.....	2	天池C遺跡(No.1～5).....	6
3. 試掘調査.....	2	白石遺跡(No.6).....	13
伊勢領遺跡(No.1).....	3	伊勢領遺跡(No.7).....	14
黒河新I遺跡(No.2).....	3	青井谷丸山II遺跡(No.8).....	15
二の井遺跡(No.3).....	4	塚越B遺跡(No.9).....	17
中山中遺跡(No.5).....	4	普及・活用.....	19
鷺塚村中遺跡(No.4).....	5	(No.は、一覧表の番号を示す。)	
白石遺跡(No.6).....	5	表紙写真は天池C遺跡I地区	
		炭焼窯跡(S04)と須恵器窯跡(S22)が重複	

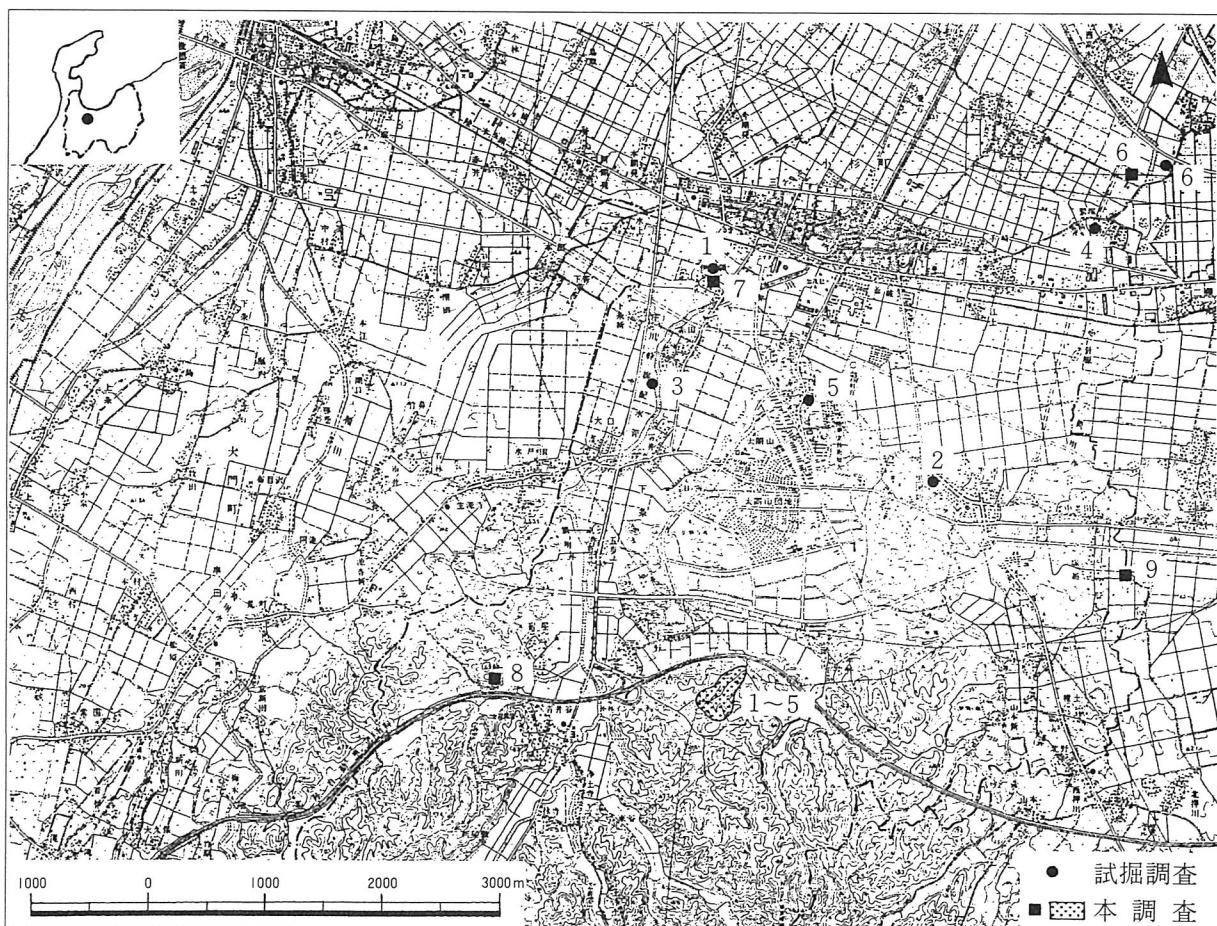
1. 平成4年度の概要

平成4年度小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・確認調査25件、試掘調査6件、本調査9件であった。このうち、射水丘陵では、昨年度に試掘調査を実施した小杉インターパーク造成事業に伴う調査が本調査面積の8割を占めた。また、平野部では、民間企業などによる工場建設及び宅地造成に伴う調査が昨年に引き続き行われ、前年度まで実施していたゴルフ場内での大規模調査を除く面積に匹敵する調査となった。

調査体制は、町の調査員2名のほか、小杉インターパーク関係の調査やその他の本調査の一部を、千葉県に事務所をもつ山武考古学研究所から調査員1~3名の協力を得て実施した。

この他県道の改良工事に伴う本調査では、県教育委員会から調査員1名の派遣協力を得て実施した。

平成5年度は、昨年度と継続して小杉インターパーク及び民間による宅地造成に伴う大規模な本調査と、新たに県道改良に伴う大規模な本調査が2箇所で予定されている。小杉インターチェンジを中心とした道路網等の整備により、今後も町内全域での開発が想定され、造成に先立つ充分な遺跡の保護措置や調査体制の充実が必要となってくる。



第1図 調査位置図（数字は調査一覧表の番号を示す）

2. 分 布 調 査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地内や付近で行われる公共事業や民間の各種開発に先立ち、事業者と協議して事前に現地確認をして遺跡の分布状況を把握したり、或は、遺跡の所在が予想される地域での大規模な開発に対し、遺跡の分布調査を実施している。調査件数は、1ヶ月に数件程度である。周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図（1万分の1）に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し周知の遺跡として、その後取り扱われることになる。

3. 試 掘 調 査

平成4年度、町教育委員会が実施した試掘調査は、県道改良の公共事業1件を含めて6遺跡6件であった。試掘の結果、本調査が必要となった箇所は5割に達した。

本調査は、一昨年と昨年試掘を行った4件と今年度試掘の1件を実施し、残りの3件を次年度にもちこすこととなった。

No.	遺跡名	所 在 地	原 因	調査期間	対象面積	発掘面積	検出遺構	出 土 遺 物	開発への対応
1	伊勢領	三ヶ 2,237外	宅地造成	H4.3.16～ 3.24 (延べ4日間)	約 12,000 m ²	約 1,000 m ²	穴・溝	縄文土器・弥生土器 ・土師器・須恵器・ 鉄滓・珠洲	本調査実施
2	黒河新I	黒河826	宅地造成	H4.3.30 (延べ1日間)	約 855m ²	約80m ²	穴・溝	土師器・須恵器 近世陶器・鉄滓	支障なし
3	二の井	下条 1,755-1外	駐車場造成	H4.4.18 (延べ1日間)	約 2,779 m ²	約 136m ²			支障なし
4	鷺塚村中	鷺塚字村中 652外	小杉本江線 改良工事	H4.11.9～ 11.12 (延べ4日間)	約 15,000 m ²	約 1,500 m ²	穴・溝	弥生土器・珠洲	本調査必要
5	中山中	太閤山 1-44外	アパート 建設	H4.12.12 (延べ1日間)	約 1,660 m ²	約70m ²	穴・溝	縄文土器(晚期) 弥生土器・須恵器	本調査必要
6	白石	白石809外	車庫・倉庫 建設	H5.2.26 (延べ1日間)	約 2,281 m ²	約 285m ²		弥生土器・珠洲	支障なし
計	6遺跡	延べ 12日間		対象面積 約34,575m ²		発掘面積 約 3,071m ²			

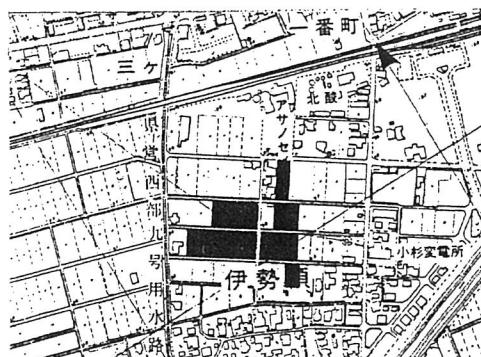
表1 試掘調査一覧

伊勢領遺跡（No. 1）

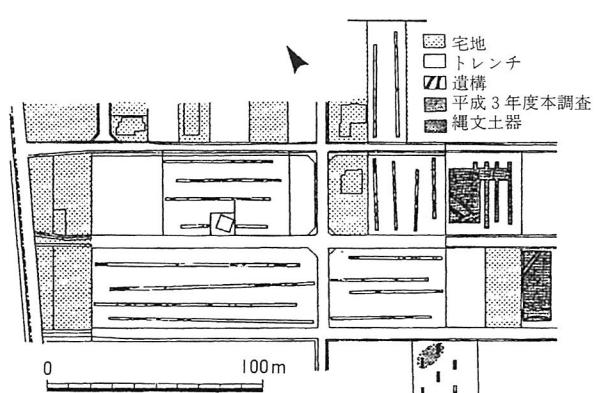
遺跡は、標高約 5 m の平野部にあって、下条川左岸の微高地上に立地している。

調査対象地東側の隣接地は、平成 3 年の春に本調査を実施し、弥生時代や奈良時代の遺構が検出されている。

今回の調査地は、とくに南側で溝・土壙が集中して確認されている。遺物は、弥生時代末から古墳時代初め、奈良～平安時代中世の土器が出土した。また、南の一段低い水田から縄文時代中期中葉の土器が出土した。



第 2 図 位置図 (1/10,000)



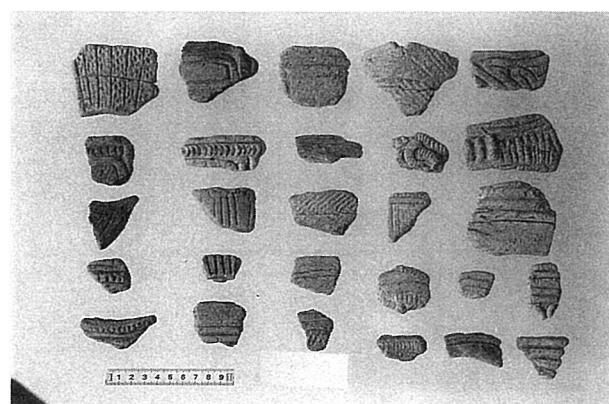
第 3 図 発掘区

黒河新 I 遺跡（No. 2）

遺跡は、丘陵部と平野部の接する所にあって標高約 7 m の丘陵裾部に立地する。

この遺跡の南側約 200 m の丘陵上に位置する黒河西山遺跡は、昭和 63 年の調査で奈良時代の須恵器窯跡や炭焼窯跡が確認されている。

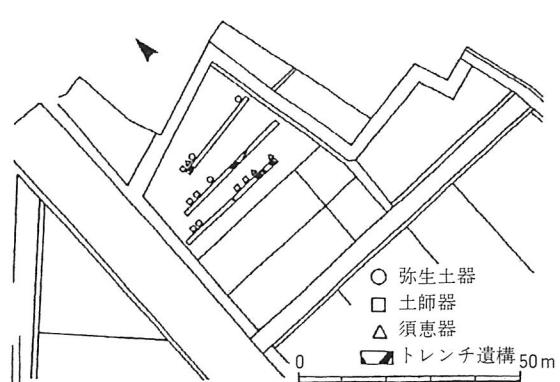
今回の調査では、耕作土及び用排水路跡から土師器、須恵器が確認された。



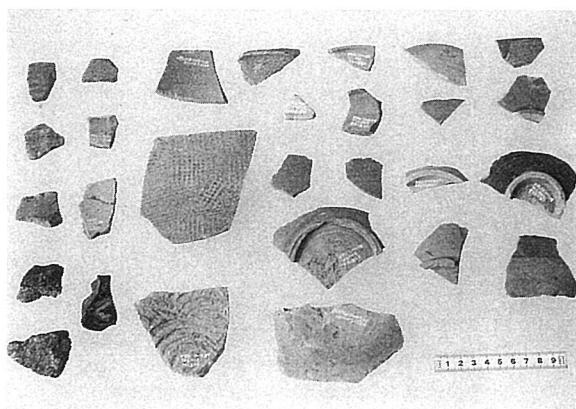
出土遺物



第 4 図 位置図



第 5 図 発掘区



出土遺物

二の井遺跡 (No. 3)

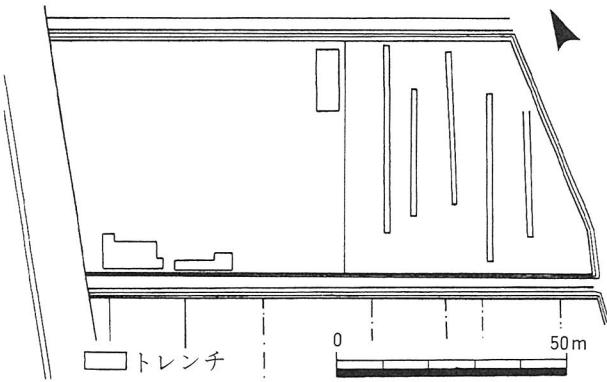
遺跡は、標高約 5.5m の平野部にあって、下条川左岸の水田に立地する。

これまで対岸周辺から弥生時代後期や奈良～平安時代・中世の土器が出土している。

今回の調査地は、下条川改修時に搬出された土砂を利用して整理されており、遺構・遺物は確認されなかった。



第6図 位置図



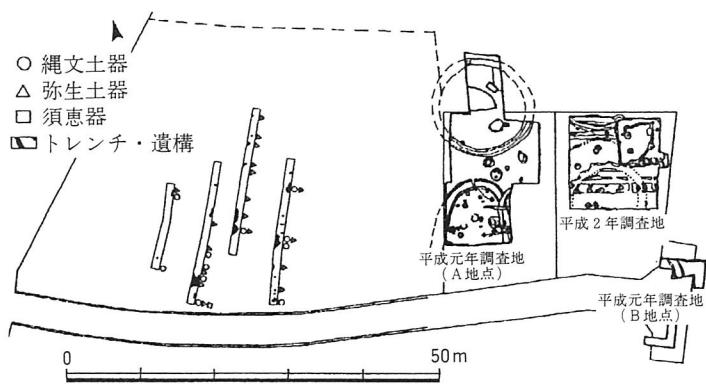
第7図 発掘区

中山中遺跡 (No. 4)

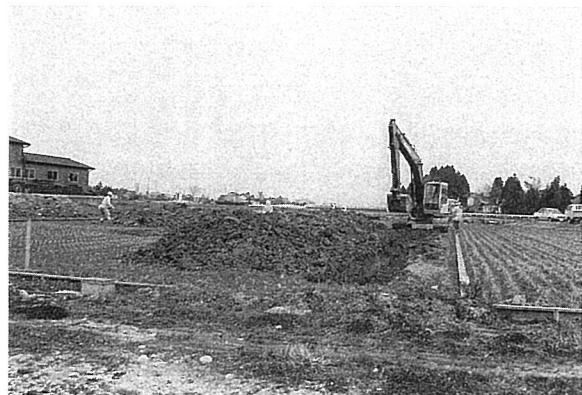
遺跡は、標高約10mの丘陵部と平野部の接する丘陵先端寄りに立地する。

この遺跡は、昭和56年、平成元・2年に発掘調査が行われ、弥生時代末から古墳時代初期の住居跡や古墳の周溝と奈良時代の竪穴住居跡が検出されている。

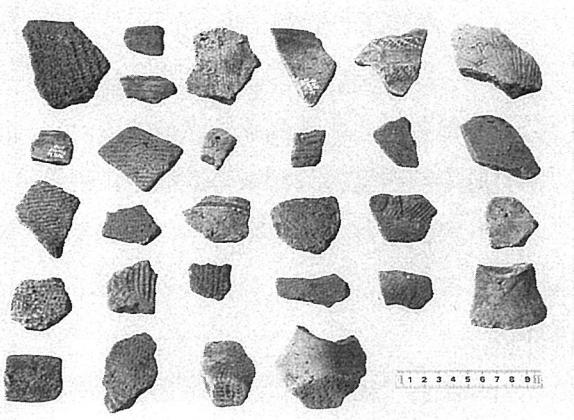
今回の調査地では、ピット・土壤・溝が確認され、縄文時代晚期の土器、弥生土器、須恵器が出土している。



第8図 発掘区



調査の様子



出土遺物



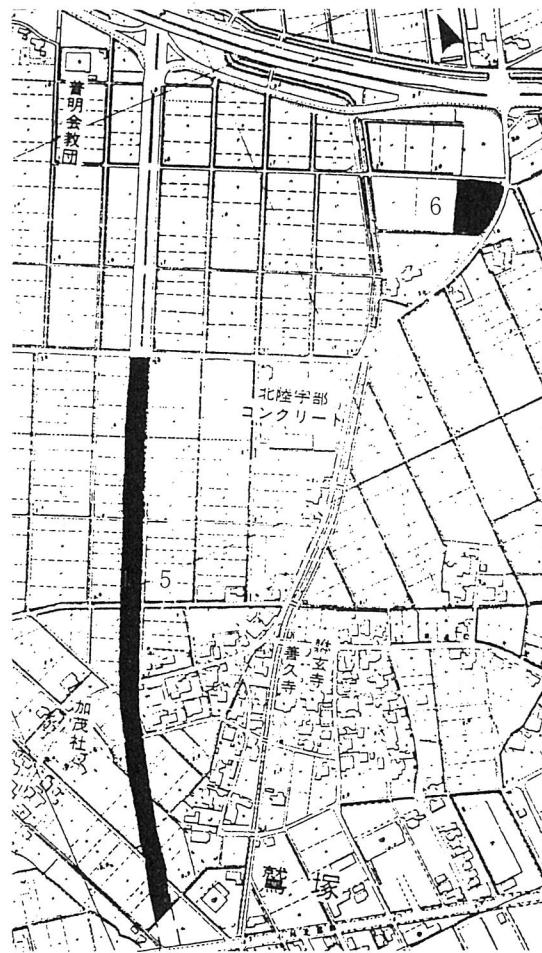
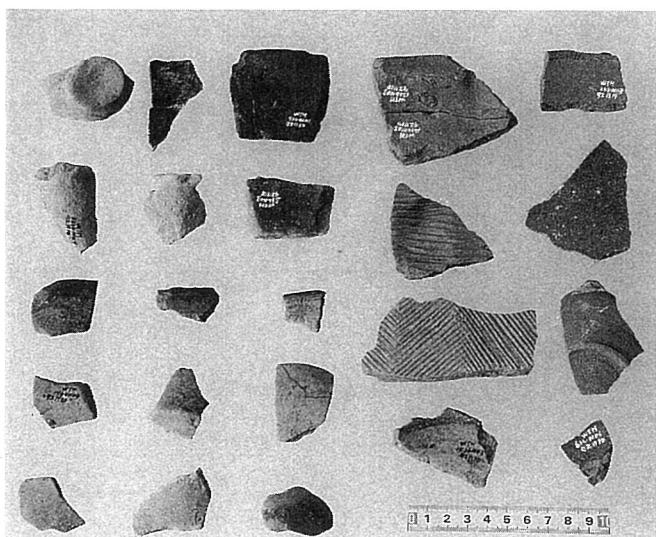
第9図 位置図

鷺塚村中遺跡 (No. 5)

遺跡は、標高 2.5m の平野の微高地上に立地する。

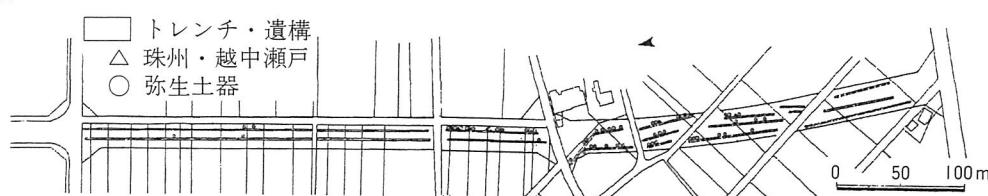
調査対象地北側では、平成 2 ~ 本年にかけて、町道工事や工場建設により発掘調査が実施され、縄文・弥生時代、奈良~平安時代の遺物、鎌倉~室町・戦国・江戸時代に至るまでの遺構・遺物が確認された。

今回の調査地では、鷺塚の部落がある微高地付近を中心に穴・溝が確認され、弥生土器・珠洲がまとまって出土している。



第10図 位置図

出土遺物



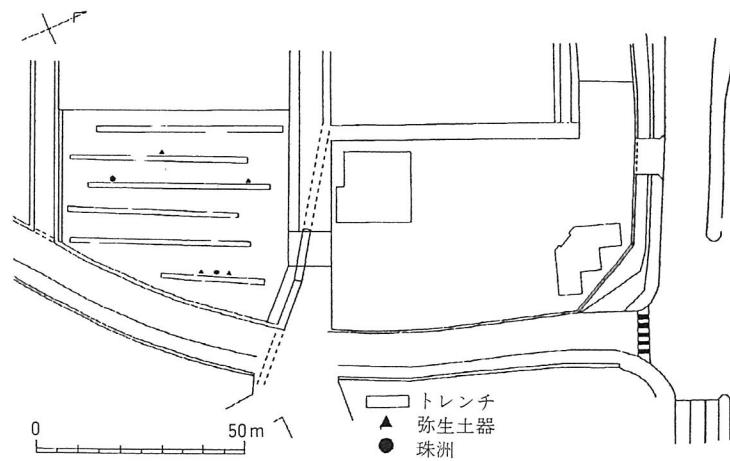
第11図 発掘区

白石遺跡 (No. 6)

遺跡は、標高約 2 m の平野部に立地している。

調査対象地西側は、本年度発掘調査を実施した白石遺跡に隣接している。

今回の調査では、若干の遺構と弥生土器と珠洲が十数点出土している。



第12図 発掘区

4. 本 調 査

平成4年小杉町教育委員会で実施した本調査は、企業団地造成と主要地方道富山・戸出・小矢部線道路改良の公共関連事業2件と民間会社による3件であった。

No.	遺跡名 所在地	原因	調査期間	発掘面積	検出遺構	出土遺物
1	天池C—I 入会地字天池	工場用地造成	H4.4.13~12.22 (延べ162日間)※	約12,000m ²	須恵器窯跡2・製鉄炉(箱形11・整形6)・炭焼窯(地下式3・半地下式11)・ピット・穴65・溝3	石器・須恵器・土師器・羽口・鉄滓・炉壁・木製品・砥石
2	天池C—II 入会地字天池	工場用地造成	H4.10.9~12.18 (延べ24日間)	約 470m ²	半地下式炭焼窯1・焼壁穴1・穴1	須恵器・土師器・鉄滓
3	天池C—III 入会地字天池	工場用地造成	H4.4.24~9.17 (延べ87日間)※	約 2,200m ²	製鉄炉1・半地下式炭焼窯1・穴13・溝1	須恵器・鉄滓・炉壁・木製品
4	天池C—IV 入会地字天池	工場用地造成	H4.9.17~12.9 (延べ34日間)	約 680m ²	半地下式炭焼窯1・地下式炭焼窯2・焼壁穴2	砥石1・鉄滓
5	天池C—V 入会地字天池	工場用地造成	H4.9.26~11.5 (延べ18日間)	約 375m ²	穴3	
6	白石 鷺塚1,517	工場建設	H4.9.7~12.9 (延べ60日間)※	約 2,290m ²	掘立柱建物3・溝36・井戸22・穴106・ピット259	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・銅錢・陶磁器・木製品・石臼・木の実・小刀・仏具
7	伊勢領 三ヶ2,237外	宅地造成	H4.10.12~12.25 (延べ54日間)※	約 1,440m ²	溝14・井戸4・穴6・ピット	石器・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・木製品
8	青井谷丸山II 青井谷字丸山	土砂採掘	H4.11.18~11.30 (延べ5日間)	約 40m ²	集石塚状遺構	
9	塚越B遺跡	道路造成	H4.11.25~12.11 (延べ11日間)◎	約 230m ²	穴14・採土穴6	鉄滓
計	5 遺跡		延べ 455日間	発掘面積 約19,725m ²	調査期間の◎印は県教育委員会の調査協力を得たもの 調査期間の※印は山武考古学研究所の調査協力を得たもの	

表2 本調査一覧

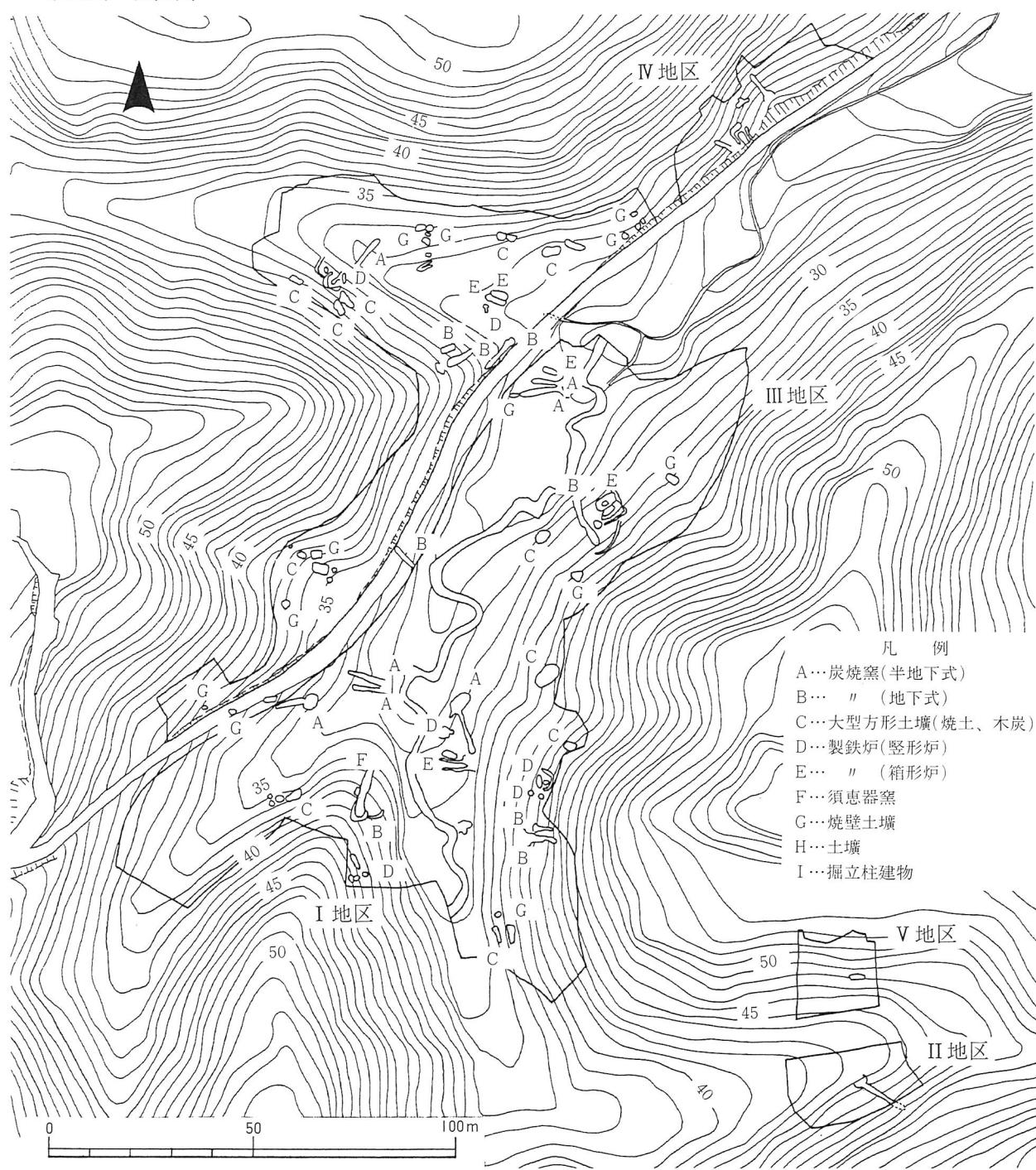
天池C遺跡 (No.1)

小杉インターパークの計画は、昭和58年3月に北陸自動車道小杉インターチェンジに隣接する小杉町上野の山林を中心とした地域が、通産省から工業適地の指定を受けたことに始まる。翌年3月にテクノポリス地域指定も受け、富山テクノポリス計画の一環に小杉インターパークが組み込まれることとなる。平成2年から計画が具体化され、開発面積33ha、平成5年10月工事着工、平成8年3月造成完了を目指すこととなった。

計画地内の周知の遺跡は、事前整備の一つとして平成3年6~8月にかけて天池C遺跡・水蔵場G遺跡・水蔵場H遺跡を対象に試掘調査を実施した。本年度は4月から天池C遺跡のI~V地区を対象に本調査を実施した。なお調査期間を短縮するために、4月から9月までの期間に民間の考古学研究所の協力を得た。



第13図 位置図



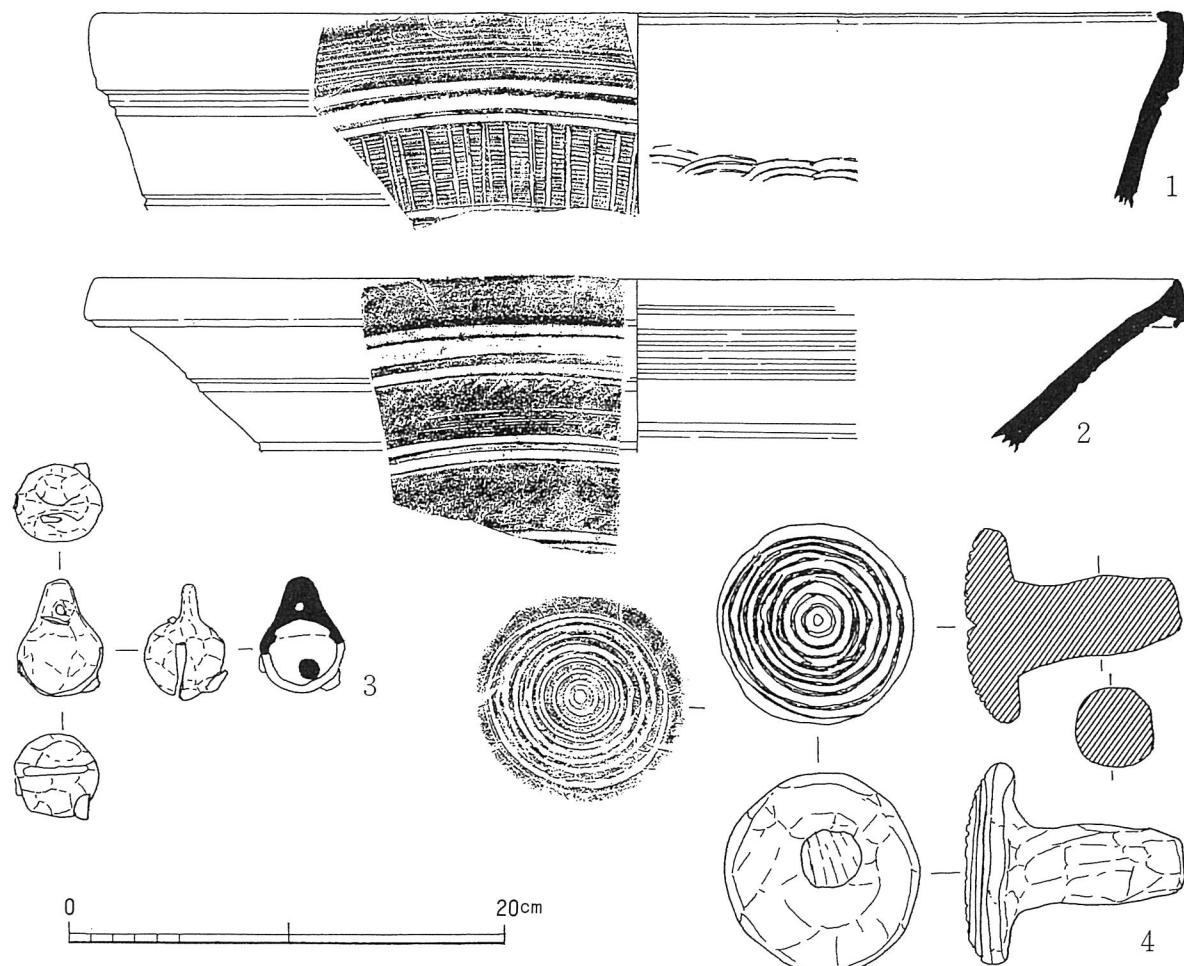
第14図 天池C遺跡遺構配置図

I 地区の須恵器窯跡

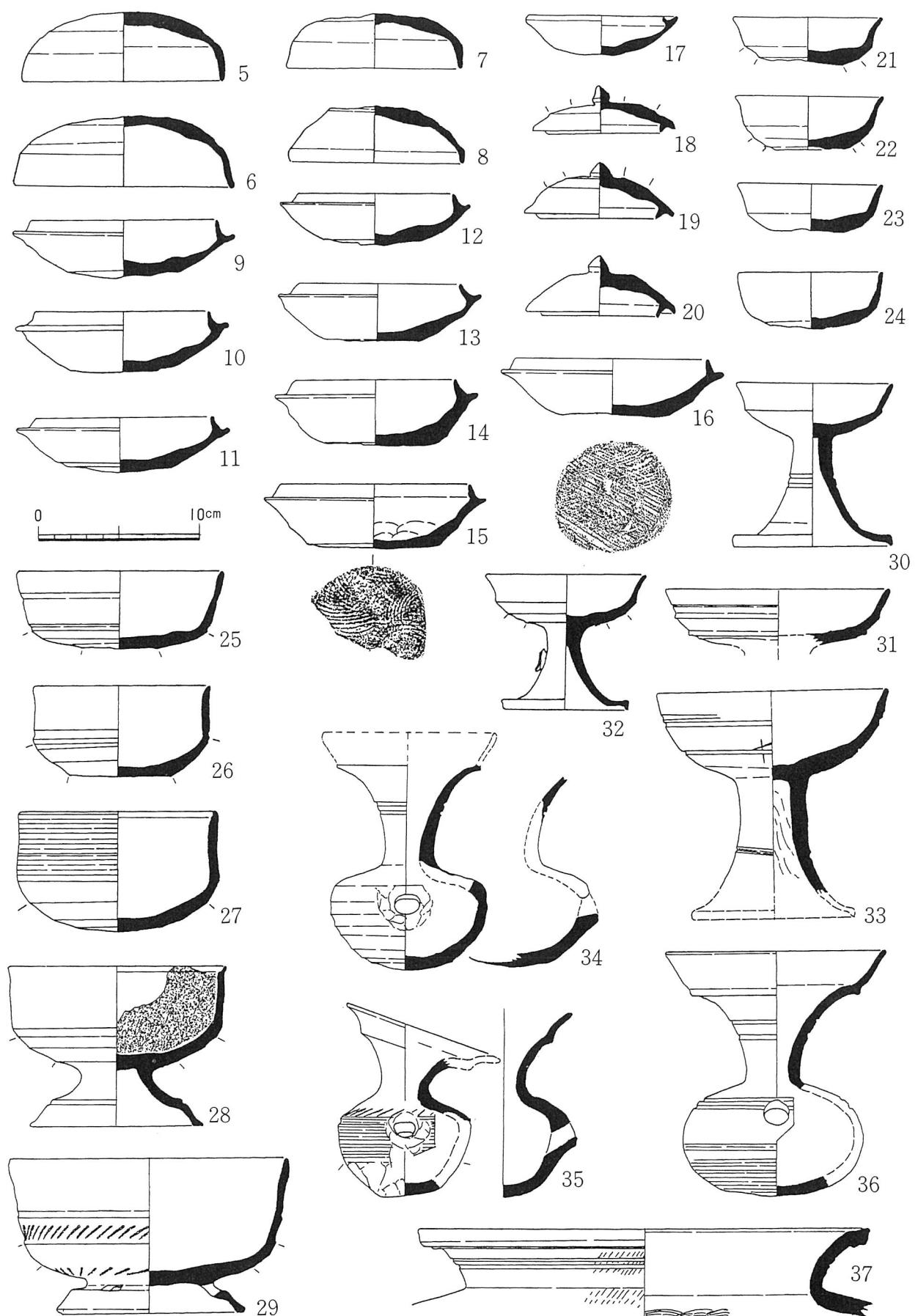
須恵器窯跡の検出されたやせ尾根の先端部は、その地形を利用し、最下面に7世紀初めから前半にかけての須恵器窯跡(S-22)とその上面に8世紀初め頃の須恵器窯跡(S-21)、更にこの窯体を意識して構築された8世紀代の地下式の炭焼窯(S-04)とその焚き口から前庭部にかけて箱形製鉄炉が4基構築されている。

8世紀初め頃の須恵器窯跡は、7世紀初めから前半にかけての須恵器窯跡の窯体を利用し、その上面約10~40cmに築かれた半地下式のあな窯である。窯体は、全長約6.5m、最大幅約1.6m、最大勾配約26度を測る。床面からは、杯蓋、杯身、壺、甕の破片が出土している。窯跡の下方の灰層の広がりは、大きくななく短期の操業で箱形製鉄炉の排滓の捨て場とほぼ重複している。

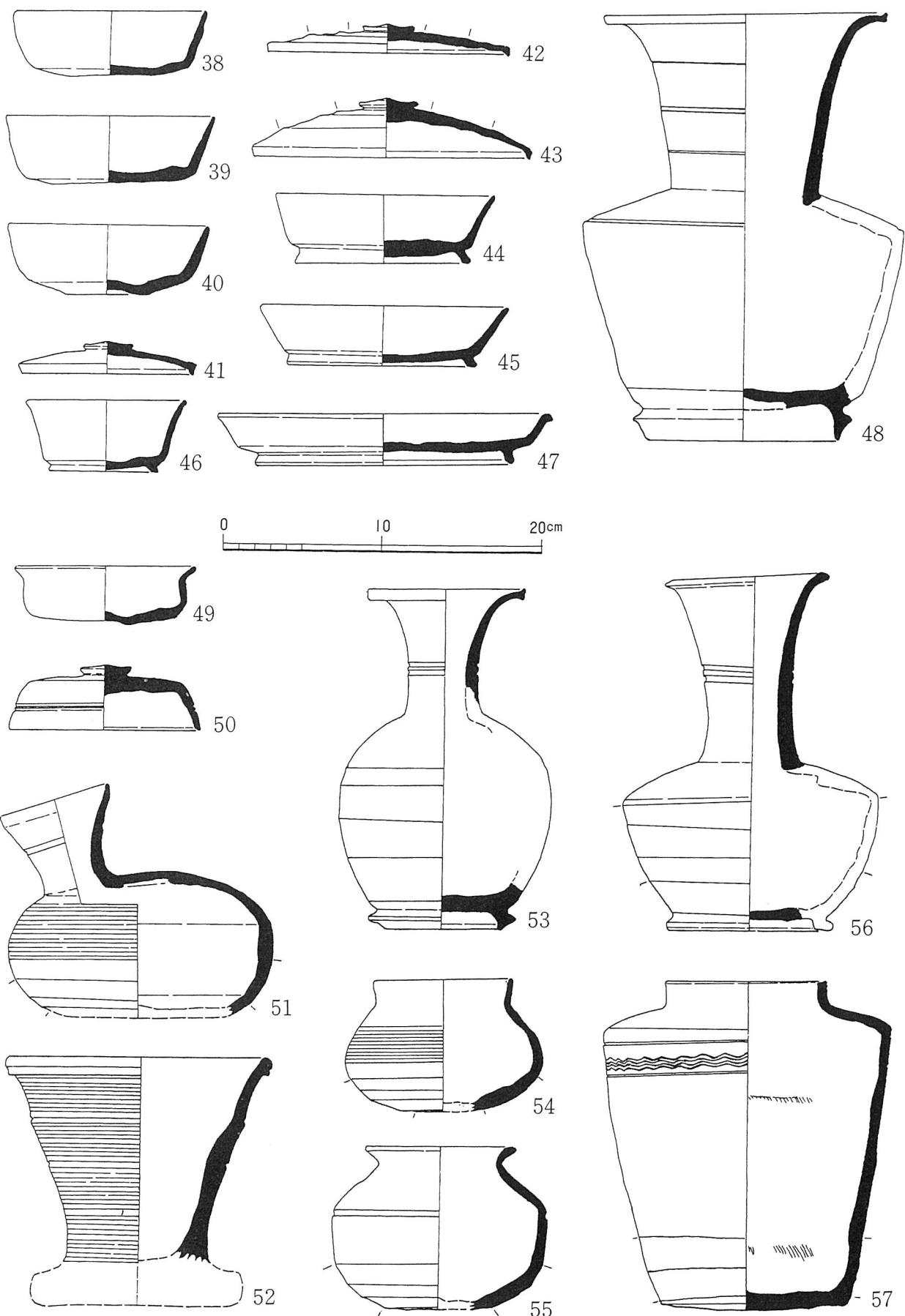
7世紀初めから前半の窯跡は、地下式のあな窯で全長約7.2m最大幅約1.8mを測る。床面からは大甕、杯身、杯蓋、高杯の破片が出土している。窯の下方には約10×10mの広さの灰層が谷部に続き約20~130cmの厚さでみられ、須恵器の出土量は、2基合わせて整理箱で約450箱もあった。中でも、7世紀前半(飛鳥II段階)のものは、県内の窯跡では初見である。



第15図 天池C遺跡 I 地区須恵器窯跡出土遺物



第16図 天池C遺跡I地区須恵器窯跡出土遺物



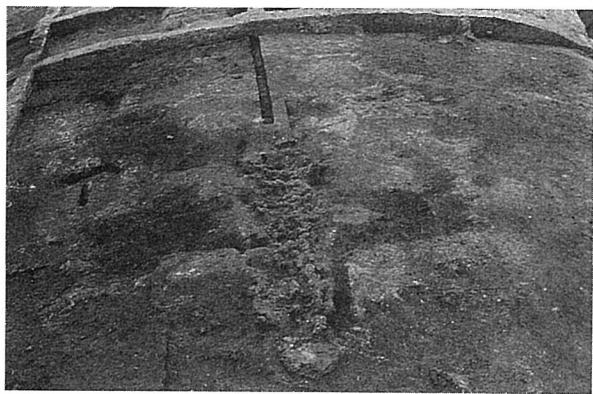
第17図 天池C遺跡I地区須恵器窯跡出土遺物



天池C遺跡全景（南から）



天池C遺跡 I 地区 須恵器窯跡付近



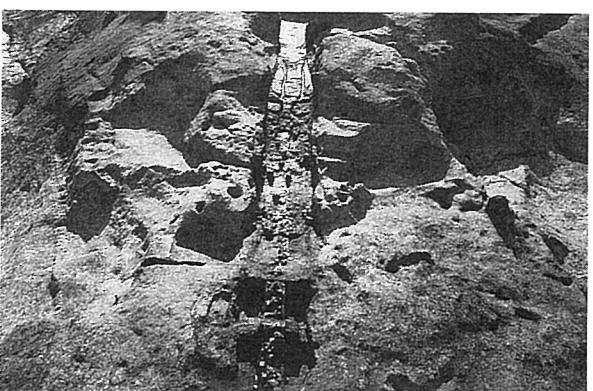
I地区 箱形製鉄戸（炉床検出）



I地区 大型方形土壙



IV地区 炭焼窯（左：半地下式・右：地下式）



須恵器窯跡（8世紀初め）



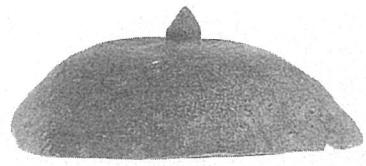
須恵器窯跡土器出土状況（7世紀初めから前半）



同左 完掘



51



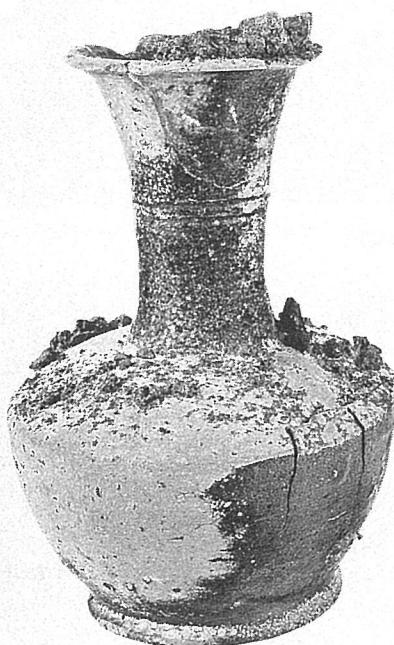
18



57



53



56



43

天池C遺跡 須恵器窯跡出土遺物 18は実大の1/2 他は1/3

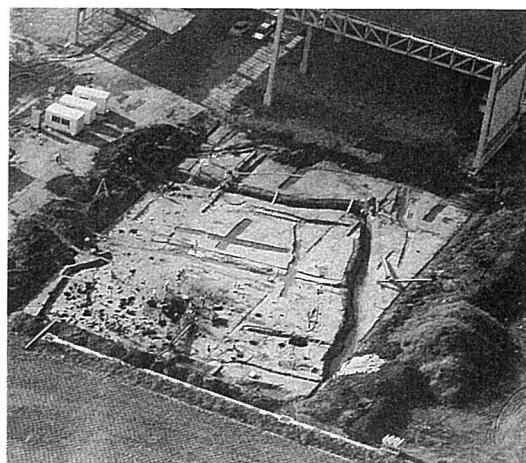
(番号は実測図番号)

白石遺跡：東地区（No. 6）

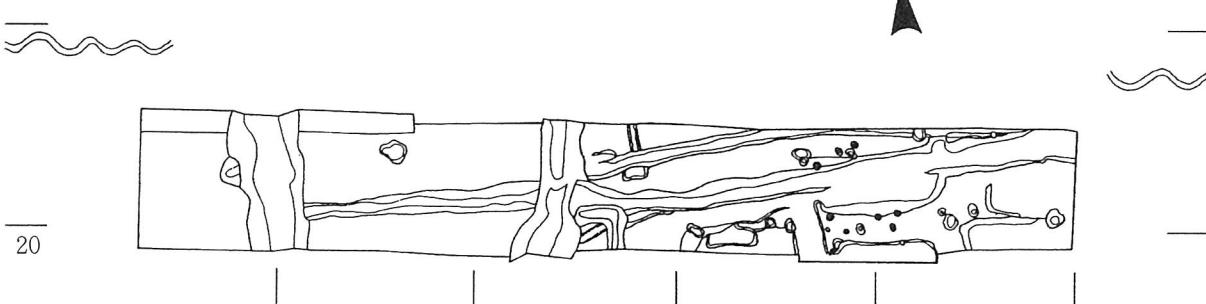
平成3年度調査区の東側を発掘した。主体となる中世の遺構は、幅約4m程、深さ1.2mのL字状にめぐる溝（SD42）とこの溝に囲まれた部分から、井戸22基・掘立柱建物3棟などがあり館跡状を呈していた。



第18図 位置図



発掘区全景（東上空から）

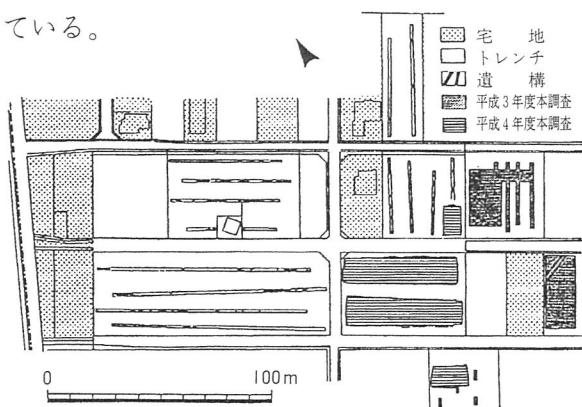


第19図 遺構配置図

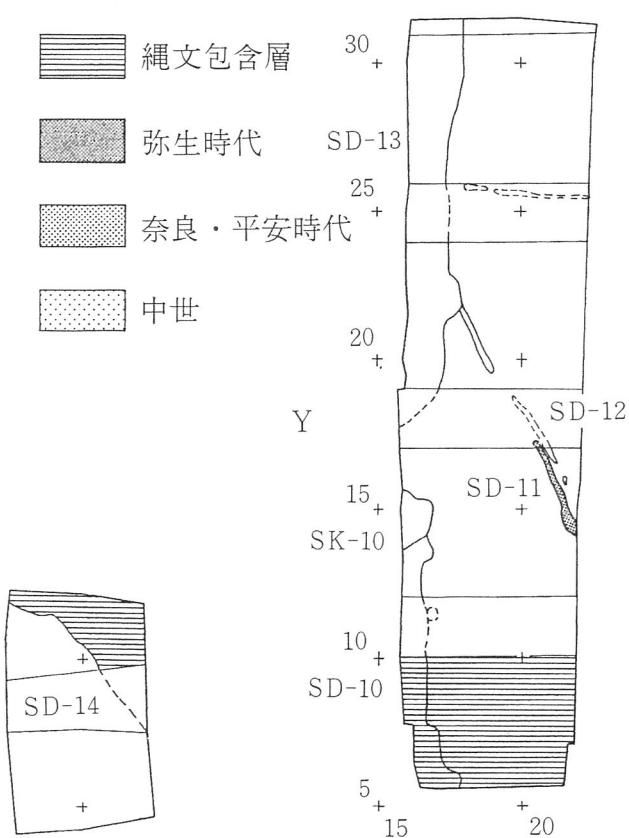
伊勢領遺跡 (No. 7)

遺構・遺物は、弥生時代の溝1条(S D11)から甕・高杯等が出土、奈良・平安時代では、溝2条(S D2, S D8)から土師器・須恵器の杯・蓋・甕が多量に出土している。中世以降では、素掘りの井戸(SE1,2,3,4,)があり SE3から陶器の甕と箸・漆器の椀が出土している。

また、表土下約1.5mの暗青灰色粘質土層から縄文時代中期の土器と磨製石斧等の石器が出土している。



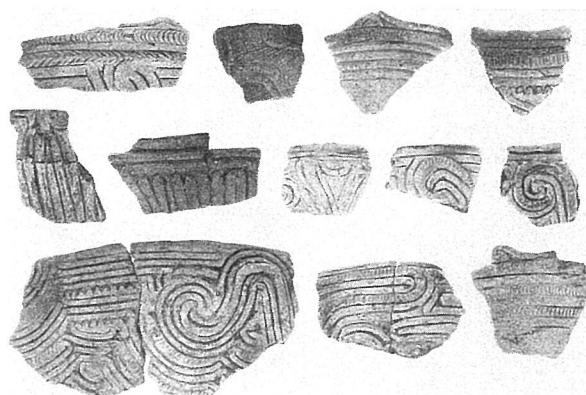
第21図 発掘図



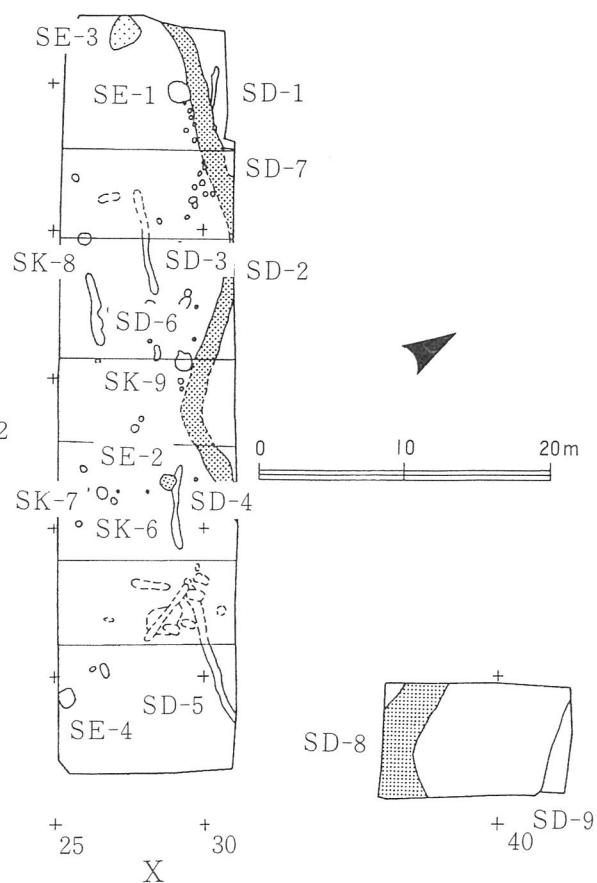
第22図 検出遺構



第20図 位置図



縄文土器



青井谷丸山II遺跡（No.8）

1. 調査の経過

本遺跡は、周知の遺跡である丸山古墳（方墳2基）が確認されていた。

平成3年にこの遺跡を含む一帯でサコウ建設株式会社の土取り事業が計画された。町教委では事前に現地踏査を行い、計画地内に丸山古墳の東側を南北にはしる尾根上に礫集積箇所が点在していることを確認した。

調査は試掘調査の結果をもとに、今年度行われる土取り区域にかかる礫集積遺構1箇所で実施した。

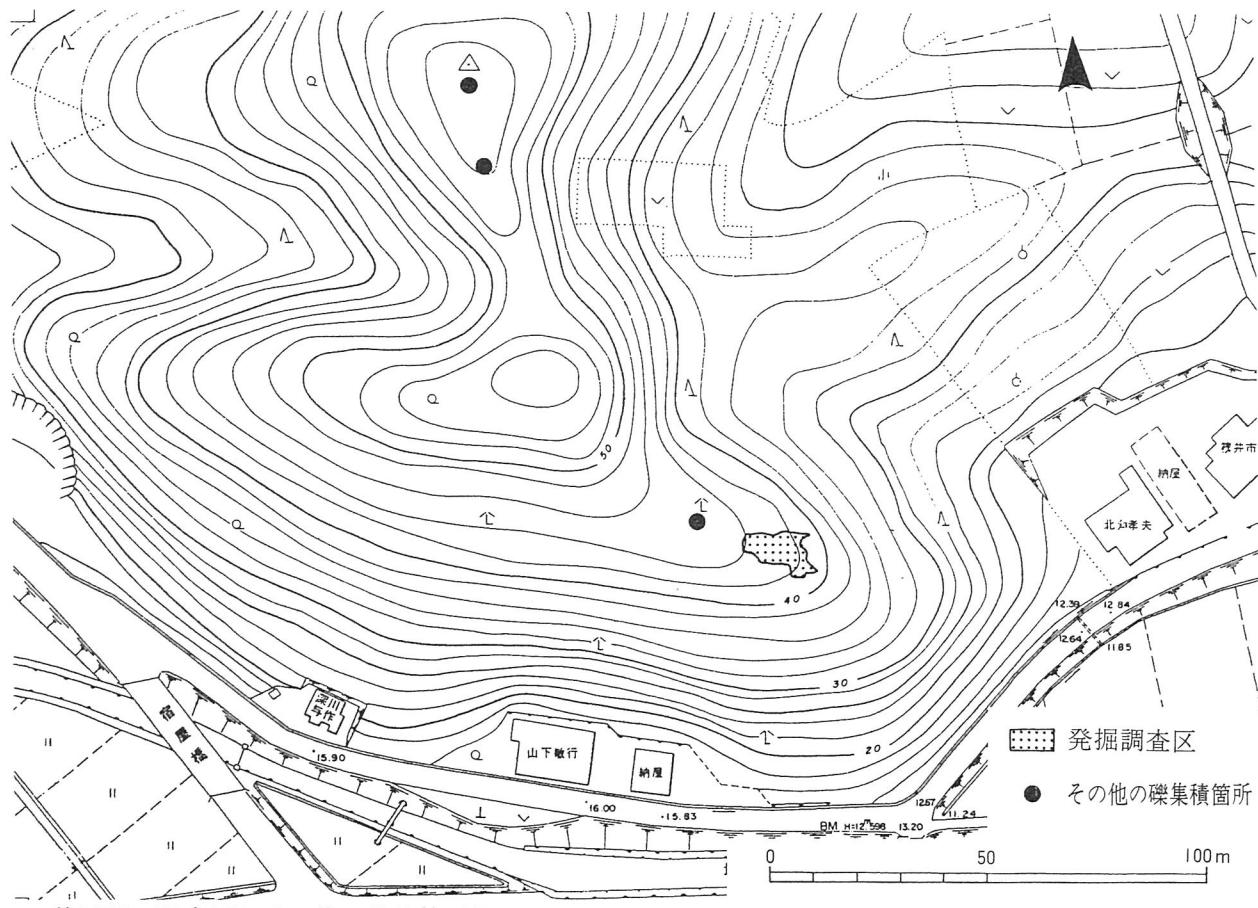
2. 調査の結果

遺跡は下条川左岸に面した丘陵の尾根先端の標高約41mに位置する。

礫は2×4mの範囲で集積が行われ、地山面から約0.10~0.25mの高さに積まれている。



第23図 位置図



第24図 調査区とその他の集積箇所位置図

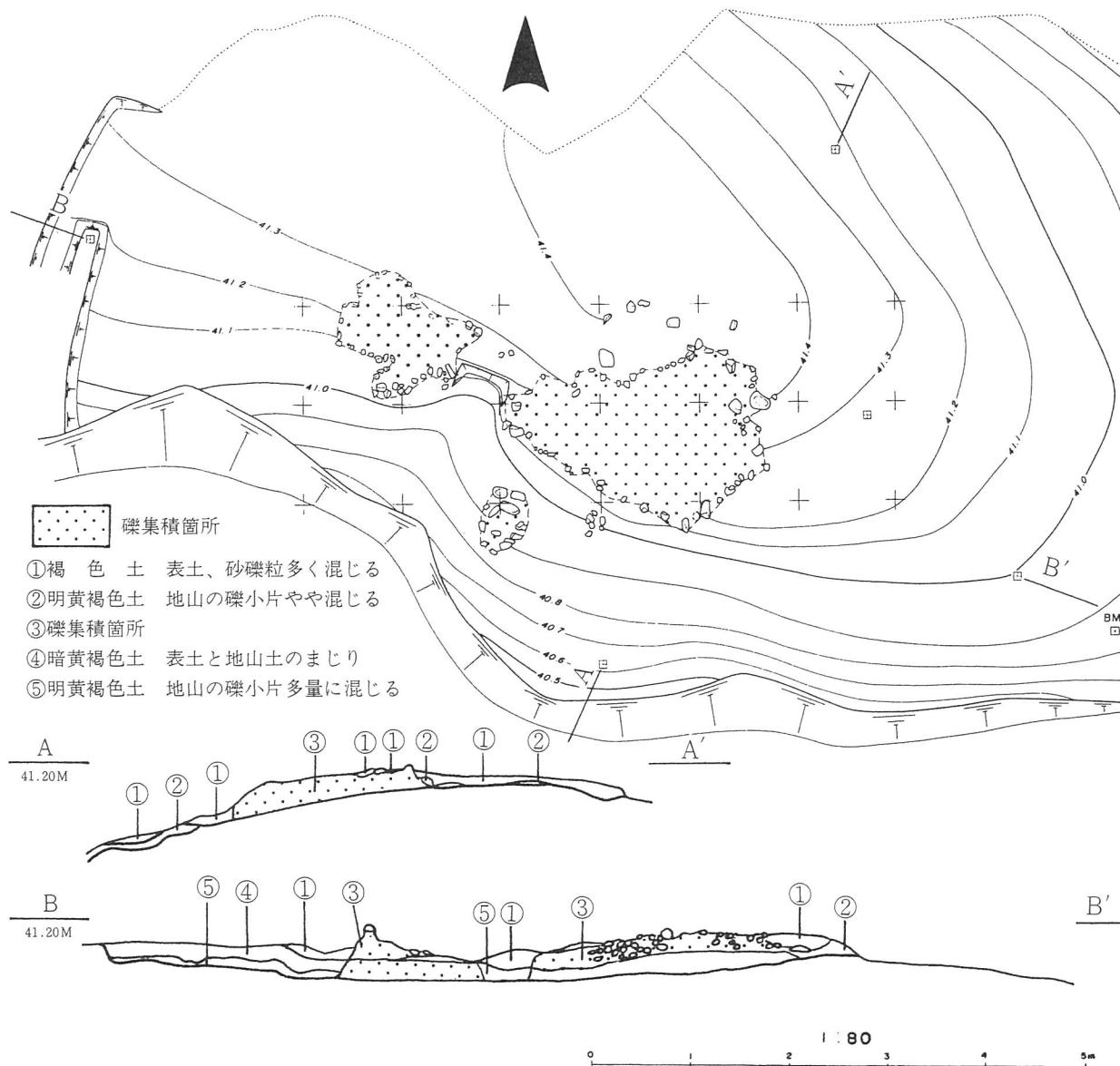
また礫の下に土坑や遺物は確認されなかった。

礫の大きさは、長径3~15cmで拳大のものが最も多い。集積された礫は、この丘陵中の地表面下約1.5~2.0mに幅約1mの礫層に含まれる礫と同質である。

遺構の性格は不明であるが、中近世の塚の一種の可能性も考えられる。この西側約20mの尾根上と丸山古墳1号墳の北50mの尾根上更に20m北に同種の礫集積箇所が確認されており、これらの今後の調査成果から遺構の性格を検討したい。



礫集積遺構（西から）



第25図 遺構平面図

塚越B遺跡

1. 調査の経過

塚越B遺跡は、主要地方道富山・戸出・小矢部線の道路改良事業の一貫である、古沢バイパスの建設に先立ち、平成3年度に実施した試掘調査で発見された。

調査は試掘調査の結果をもとに、バックホウで表土除去を行なった。表土除去後、遺構が南へ延びるのを確認したため再度拡張した。調査面積は230m²、調査期間は平成4年11月25日～12月11日までの11日間であった。

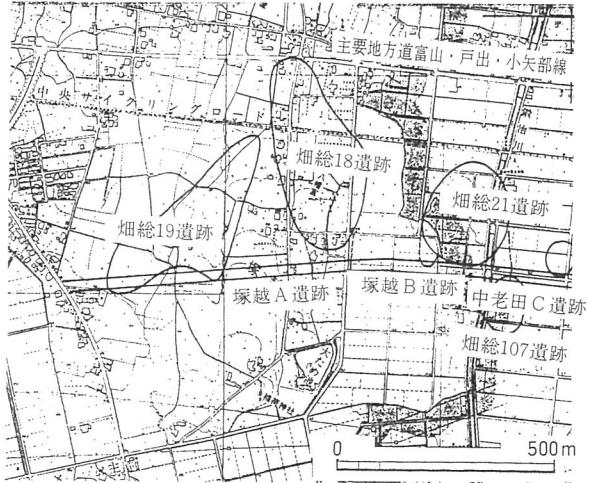
2. 調査の結果

遺跡は富山市と小杉町の境を流れる鍛冶川の西150mに位置している。今回の調査区は遺跡の南端に位置し、遺跡は北へ広がる。周辺には、前年度調査された中老田C遺跡、塚越A遺跡など製鉄関連遺跡が多い。

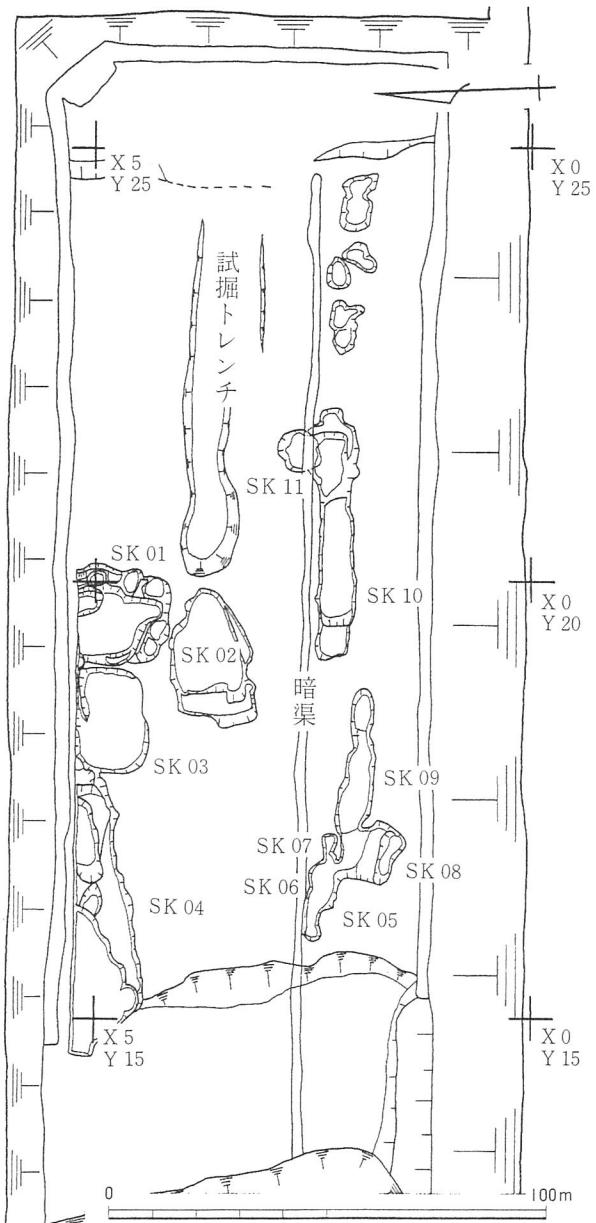
基本層位はI層：耕作土・II層：暗茶褐色土（旧耕作土）・III層：黄褐色シルト（地山）・IV層：青灰色礫層（地山）である。ほ場整備時の削平が激しく包含層は存在しない。

遺構は土坑20基を確認した。土坑は2種類ある。一つは断面形がフラスコ状を呈し、覆土下層にはIII層をブロック状に含むもの。もう一つは浅く、断面形が皿状を呈し、覆土に旧耕作土の暗褐色粘質土を含む新しい時期のものである。

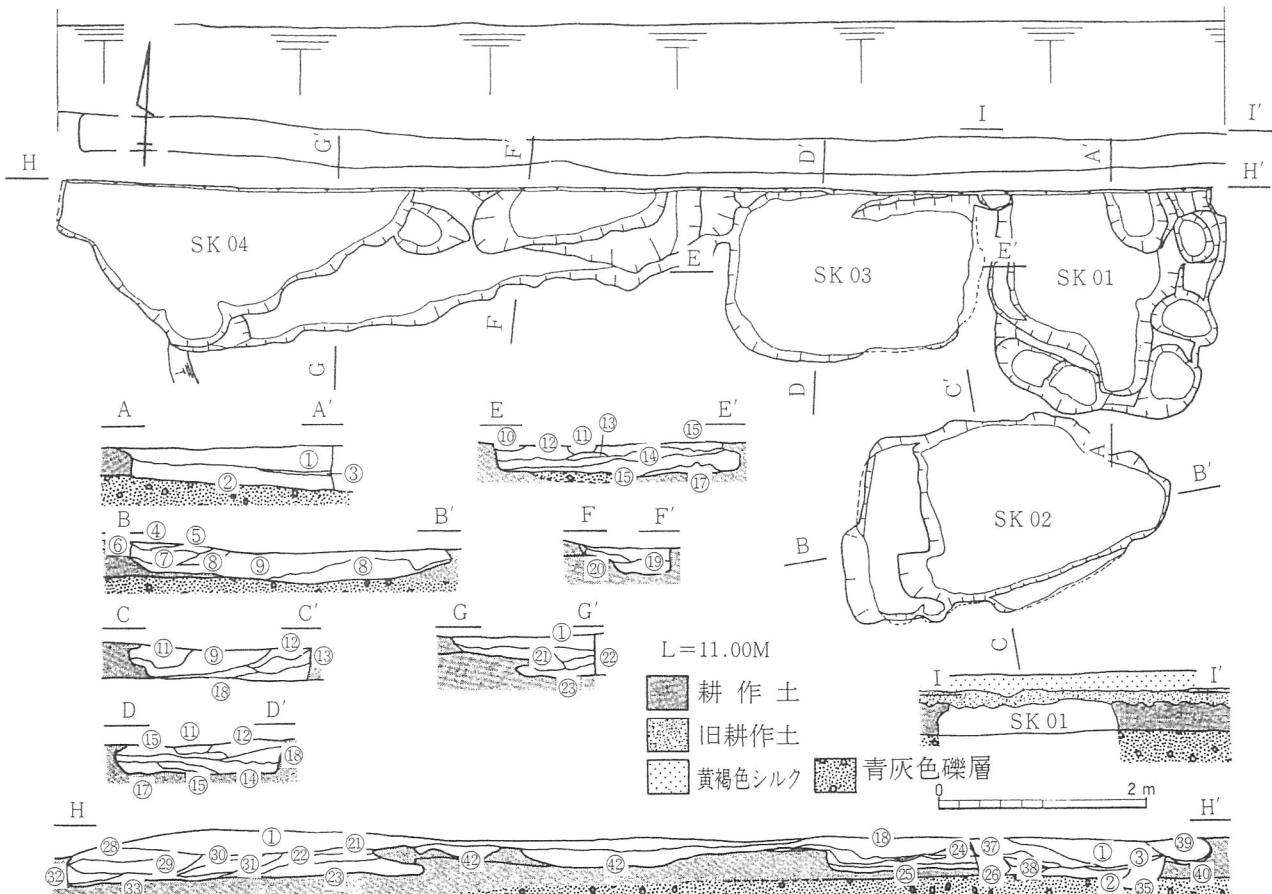
前者にはSK01～04がある。塚越A遺跡でも同様の穴を検出しており、これらは製鉄関連遺構に伴う採土穴と考える。採土穴はIV層上面で止まっているものが多くIII層の黄褐色シルトを採土していたと考える。遺物は、時期などが解かる土器は出土しておらずSK01・04の、うめ土上面から鉄滓・炉壁が出土している。



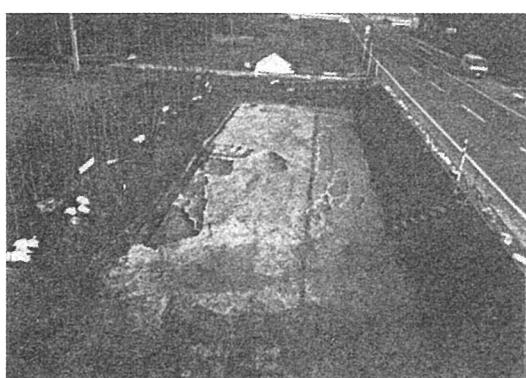
第26図 位置図



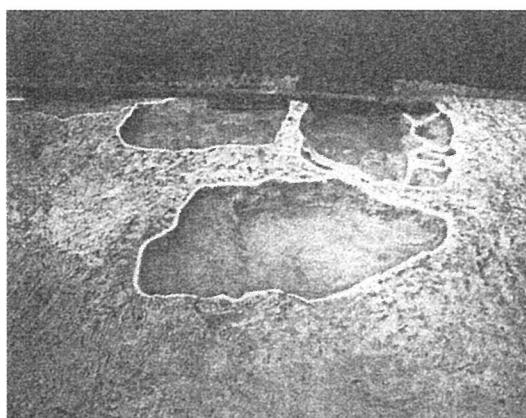
第27図 遺構平面図



第28図 SK 01・02・03・04

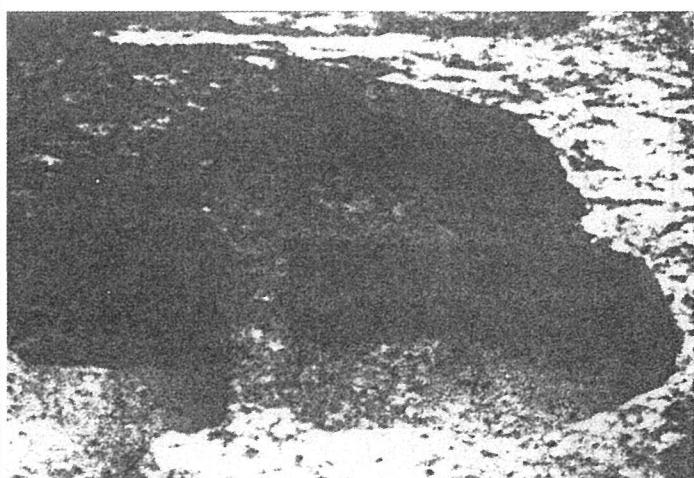


全 景 (西から)



SK 01・02・03 完掘 (南から)

層名 (A B C D E F G H I セクション)	
1 黄褐色シルト混じり暗褐色粘質土	21 黄褐色シルト混じり暗灰茶褐色粘質土
2 黄褐色シルト混じり灰色粘質土	22 暗茶褐色粘質土
3 灰色粘質土	23 黄褐色シルト混じり暗茶褐色粘質土
4 暗灰褐色粘質土	24 茶褐色粘質土混じり暗茶褐色粘質土
5 灰色粘質土	25 黄褐色シルトブロック
6 黄褐色シルトブロック	26 黑褐色粘質土
7 灰色シルト混じり暗褐色粘質土の互層	27 黄褐色シルト混じり灰色土
8 黄褐色シルト混じり暗褐色粘質土	28 黄褐色シルト混じり暗茶褐色粘質土
9 暗茶褐色粘質土	29 黑褐色粘質土混じり暗茶褐色粘質土
10 淡黄褐色シルト	30 灰褐色粘質土混じり黑褐色粘質土
11 茶褐色粘質土	31 黑褐色粘質土
12 黑褐色粘質土	32 黄褐色シルト混じり茶褐色粘質土
13 暗茶褐色粘質土	33 暗灰褐色粘質土
14 黄褐色シルトブロック	34 茶褐色粘質土
15 黄褐色シルト混じり黒褐色粘質土	35 黄褐色シルト混じり暗灰色粘質土
16 黑褐色粘質土	36 黄褐色シルトブロック
17 茶褐色粘質土	37 黄褐色シルト混じり暗茶褐色粘質土
18 黄褐色シルト混じり暗茶褐色粘質土	38 黑褐色粘質土
19 暗灰褐色粘質土	39 黄褐色シルト混じり暗茶褐色粘質土
20 黄褐色シルト混じり暗灰褐色粘質土	40 黄褐色シルト混じり暗灰色粘質土



SK 03 土層 (西から)

6. 普及・活用

(1) 整理室（太閤山小学校）の見学

整理室では、平成2年に実施した赤坂C遺跡の2箇所の須恵器窯跡から出土した須恵器の復元と実測と平成2～3年に調査を実施した針原東遺跡の出土遺物の復元、実測作業を中心に、調査遺跡の報告書刊行に伴う遺物整理や図面作成を行っている。

また、今年度調査を実施した天池C遺跡I地区の須恵器窯跡から出土した須恵器の水洗いや出土地を記す注記作業と器種分類作業と復元作業及び図面の整理を進めてきた。

整理室には、次の見学があった。4月30日(木)に町会議員の見学。5月6日(水)に歌の森小学校生徒（約70名）の見学。5月29日(金)に町社会教育委員の見学。6月19日(金)に小杉町婦人セミナー（30名）の見学。7月3日(金)に中太閤山小学校生徒（約160名）の見学。7月20日に町文化財審議会委員の見学。8月7日(金)と10月2日(金)の2回にわたり町民バス（44名）の見学。9月11日(金)に埼玉県埋蔵文化財調査事業団（4名）の見学。10月2日(金)に太閤山カントリークラブ役員の見学。

(2) 遺跡現地説明会の開催

町教育委員会では、一般の方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくために、その年に実施する調査の中から1箇所を選んで遺跡の現地説明会を開催している。今年度は、11月15日(日)に天池C遺跡で実施し、県内外から約40名の参加があった。

(3) 埋蔵文化財包蔵地位置図（遺跡地図）の整備

小杉町教育委員会では、未整理であった「小杉町埋蔵文化財包蔵地位置図」と「小杉町埋蔵文化財台帳」の作成を平成元年から進めてきた。位置図は、小杉町全図（1：10,000）に周知の遺跡及び開発などで消滅した遺跡を含め記載し、近年、開発等に先立ち踏査により新発見された遺跡を新たに登載した。また、台帳は県教育委員会の様式に準じて作成し、詳細な遺跡の経歴などを記載している。この整備により、平成3年12月現在で286箇所の遺跡が登載されることになる。

今後は、未踏査地域の調査をすすめ新発見の遺跡を登載し、より整備された遺跡地図を作成し、その周知と保護をはかることが早急な課題となる。

(4) 報告書等の刊行

平成4年度に小杉町教育委員会が発掘調査を実施し、1993年3月に刊行のもの

「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1992年度」

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1992年度

平成5年3月30日発行

編集 小杉町教育委員会

発行 富山県射水郡小杉町戸破1511
〒939-03 電話(0766)56-1511

印刷 (株) チューエツ
